

# ティーボール競技規則

## I. 施設と用具

1. 施設・使用球・使用バット・対象者
2. バッターズサークル

本塁プレートの角を中心として、半径 3 メートルの円を描く。打者はこのサークル内で打撃を行う。

3. バッティングティー

バッティングティーは、本塁プレートの後方 50 cm 以上 1m 以内に置く。

## II. 競技者

1. 競技者の数

競技者は 10 名～15 名とする。両チームの選手の数と同数でなければならない。

2. 競技者の名称と守備位置

守備者は 10 名である。10 名の守備者は、本塁手（ホームベースマン）と、1 塁手（ファーストベースマン）、2 塁手（セカンドベースマン）、3 塁手（サードベースマン）、第 1 遊撃手（ファーストショートストップ）、第 2 遊撃手（セカンドショートストップ）の 5 人の内野手と、4 人の外野手に分かれる。外野手は、左翼手（レフトフィルダー）、第 1 中堅手（レフトセンターフィルダー）、第 2 中堅手（ライトセンターフィルダー）、右翼手（ライトフィルダー）に分かれる。

他の選手はエキストラヒッター（打つだけの選手）となる。

## III. 本塁手規程

- 本塁手は打者が打撃を完了するまでは、バッターズサークルの外にいないなければならない。

## IV. 打撃規程

- 打者は審判が「プレイ」と宣告した後、バッティングティーに載ったボールを打つ。
- 打撃時の軸足の移動は 1 歩までとする。2 歩以上動かしたときは、ワンストライクが加えられる。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
- 打者がボールを打たないで、ティーを打ったときは、空振りでワンストライクが加えられる。ツーストライクからこれを行ったときは、打者は三振である。
- ツーストライク後からのファールは、打者アウトである。
- バントやプッシュバントは認められない。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者はアウトである。

## V. 走塁規程

- 走者は打者が打った後、離塁することができる。走者の離塁が早いときは、走者は離塁アウトになる。
- 盗塁は認められない。
- スライディングは禁止する。（行くと走者アウト）。走者の 1 塁、2 塁、3 塁での駆け抜けは認められる。（走者は塁ベースを駆け抜けた後、進塁の意志がない場合には野手にタッチされてもアウトにならない。

## VI. 試合

試合は原則としてつぎの 3 通りとする。

0. 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が打撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数（イニング）を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の走者はこの限りではない。
1. 2チームが攻撃と守備に分かれ。攻撃側の7名の打撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数（イニング）を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の走者はこの限りではない。  
＜注＞この（1）と（2）の規定は、幼児や小学生低学年の児童がゲームを行うときに適用することが望ましい。
2. 2チームが攻撃と守備に分かれ、第3アウトが成立することによって攻守を交代し、規定の回数（イニング）を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。攻守の決定は、試合前に行われる審判員のコインのトスによる。

#### VII. 正式試合

- 正式試合の規定回数は、上記（1）の場合、3回から5回とする。また、（2）（3）の場合、5回から7回とする。正式試合では、大会要項の定めるところにより、試合時間制限を設けることができる。この場合、制限時間は上記の規定回数に優先する。
- 試合終了時に同点の場合には、原則として試合を延長して行う。
- 球審によって「プレーボール」が宣告されると、試合は開始される。
- フェアボールとファールボールは、野球やソフトボールと同じであるが、バッターズサークルフェア地域内のライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったときはフェアボールとする。
- 幼児や小学生低学年がプレーするときは、インフィールドフライのルールは適用しない。
- 登録された選手は、1試合につき最低1イニング以上プレーするか1度は打席に立たなければならない。

#### VIII. 得点

- 走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。

#### IX. 審判員

- 審判員は、2人制で行う。2人は球審と塁審（1塁）に分かれる。
- 球審は、打者の正面横に立つ。
- 塁審は、1塁手の後方、1塁のファールライン上に立つ。
- 球審は、3塁と本塁手周辺のプレーをジャッジする。
- 塁審は、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
- 球審と塁審は、打者走者の進塁が一段落しボールが内野手か本塁手に戻ったら「タイム」をかけ、次のプレーに移るように指示する。  
＜その他の試合ルールに関しては、日本ティーボール協会公式規則（ベースボールマガジン社発行）に準拠する＞

---

## 少人数で行う遊び方と簡易ゲーム

### 1. 1人で遊ぶ

- バット1本、ボール4~5個、バッティングティー1台、防御ネットを用意する。
- ボールをバッティングティーの上に載せ、防御ネットに向かってそのボールをバットで打つ。

### 2. 親子2人でプレー

- 2人は、打者と守備者に分かれる。
- 打者はボールをバッティングティーの上に載せ、そのボールを守備者に向かって打つ。
- ボールを総て打ち終わったら、守備者からの返球を捕り、ボールを集める。
- 打者と守備者は交代する。

### 3. 友達3人でプレー

- バット1本、ボール4~5個、バッティングティー1台を用意する。
- 3人は、打者と2人の守備者に分かれる。
- 打者はボールをバッティングティーの上に載せ、それを2人の守備者に向かって交互に打つ。
- 打者と守備者はローテーションで交代する。

### 4. 友達4(6)人と指導者でゲーム

- バッティングティーを中心に半径3mのサークルを描く。
- 4(6)人は、攻撃側2(3)人と守備側2(3)人に分かれる。
- 攻撃側の児童は、打者と次打者に分かれ、打者はそのサークルの中から守備者に向かって打つ。次打者はサークルの外で待機する。
- 守備側の児童は、遊撃手と2塁手の位置で守備する。
- 守備者はその打球をノーバウンドで捕ると打者アウト。ゴロで捕ったときは、バッティングティーから半径3mの円内にいる指導者か、指導者がいない場合は円内に戻ったもう一人の守備者に正しく送球し、その守備者が円内で捕球すると打者アウト。送球はノーバウンドでもゴロでもかまわない。
- 3つのアウトで攻撃側と守備側は交代する。

### 5. 12人で三角ベース

- 本塁、1塁、3塁、の各塁間は参加者の人数や技術差によって調節することができる。通常は、本塁と1塁あるいは本塁と3塁間は12~14m。1塁と3塁間は、8~14mをめどとする。
- 本塁には、本塁プレート。1塁と3塁には各塁ベースを設置する。
- バッティングティーは、本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置く。
- 選手は攻守6名ずつに分かれる。
- 攻撃は1イニング6名全員が打つ。
- 残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の残塁者はその限りではない。
- 守備者6名は、本塁手、1塁手、3塁手、遊撃手、左翼手、右翼手の位置でプレーする。
- その他の試合ルールに関しては、日本ティーボール協会公式規則に準拠する。